



備身論
前篇

9
186
21
和装本



明治七年一月

脩身論

文部省

脩身論凡例

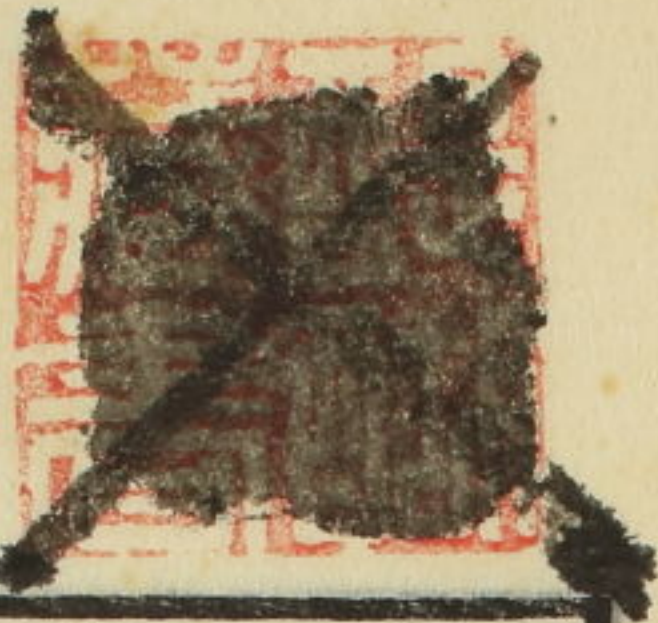
一 近來奎運ノ隆盛ニ際シ譯書ノ出ルヨリ多シ然レモ未^ク脩身ノ書ヲ譯ス見ス恐^クハ學者本ヲ棄テ末ニ趨ルノ弊ナキ能ハサラント^{シテ}是余ノ淺陋ヲ顧ミスレテ此書ヲ譯スル所以ナリ

一 原書ハ「アメリカ合衆國脩身學ノ博士」フラン^クス、^ウラ^ンド^ノ著述ニテ「エレメンツ、オ^フ、モラル、サイア^ンス」ト題セリ之ヲ譯スレハ脩身學ノ基礎ト云フ義ニシテ同氏ノ著述セル大

脩身論

凡例

一



明治七年一月
 寄贈



修身論ヲ簡略セル者ナリ

一 此書分テ前後ニ編トス前編ハ道理ヲ論シ後編ハ實行ヲ説ク

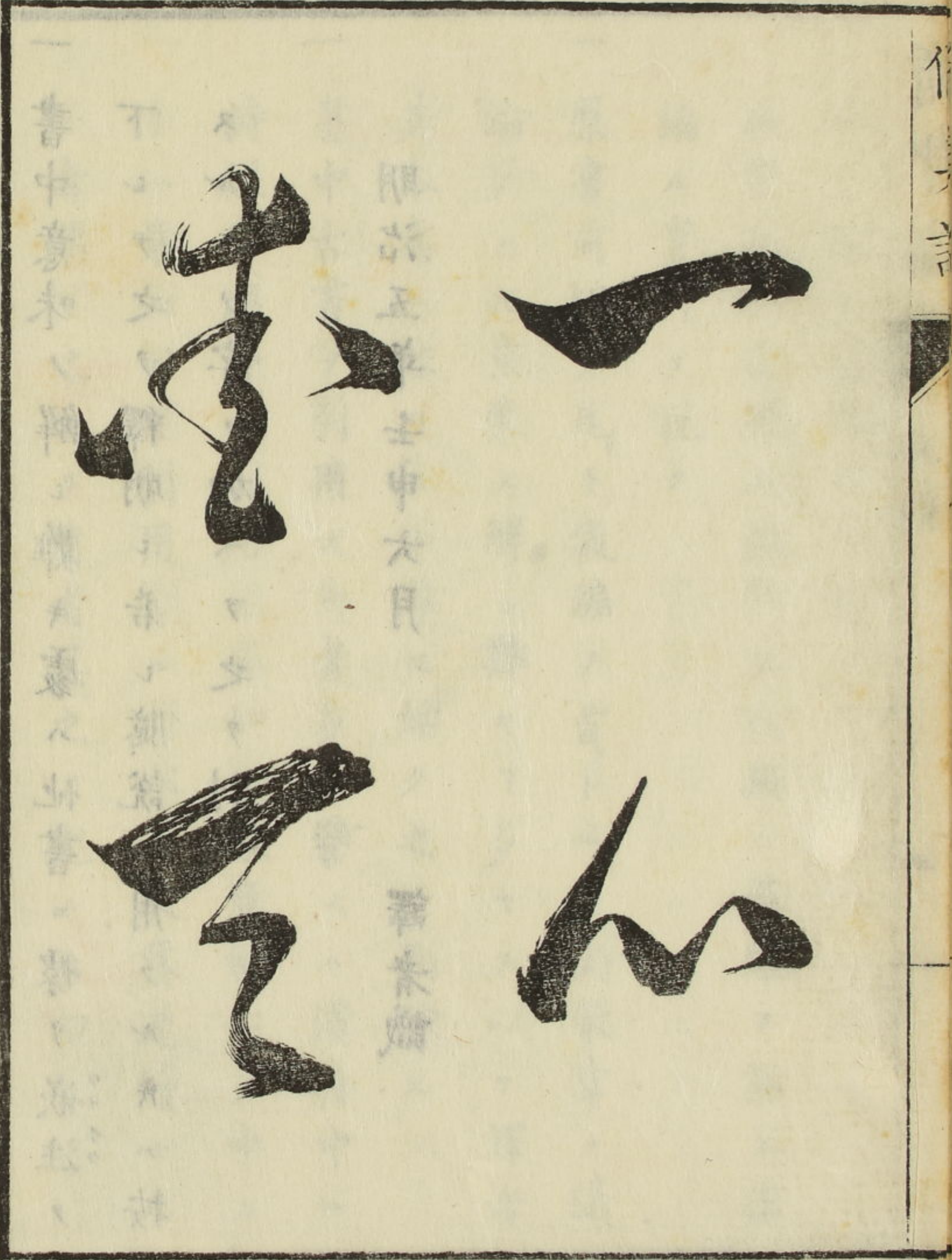
一 原書前編ノ尾ト後編ノ首トニ於テ尚數章ノ議論アレハ童蒙ノ解シ難キト多キヲ以テ譯者其本意ニ非ラスト雖ハ姑ク之ヲ刪除ス

一 書中古書ヲ引用スル者多シ譬ハ漢籍中ニ詩經書經等ヲ引用スル如ク數章數句ノ中ヨリ一章一句ヲ引用スルヲ以テ文意連續セザル者間ク之アリ看者其之ヲ尤ル_レ勿_レ

一 書中意味ノ解シ難キ處ハ他書ニ據リワリチカ嵌注カヲ下シテ之ヲ釋明シ若シ臆説ヲ用フルカハ按スルニノ字ヲ加ヘテ之ヲ別ツ

明治五年壬申六月

譯者識



修身論前編目錄

第一章

修身ノ定則修身ノ所作及ヒ志ヲ論ス

第一条

修身ノ定則

第二条

修身ノ所作志

第二章

本心ヲ論ス

第一条

本心ノ解及ヒ其人ヲ警戒スルノ方法

第二章

本心ヲ研キ或ハ之ヲ害フ事

第三章

修身ノ規則

第二章

本心已ラ責メサルキハ其行必ラス是ナリ

ヤ否ヤヲ論ス

第四章

前ノ樂ヲ論ス

後編卷一 目錄

第一章

人間相互ノ職務ヲ論ス

第二章

身體ノ自由及ヒ之ヲ破ルノ方法ヲ論ス

第一条

各箇ノ人ノ身體ノ自由ヲ妨クル事

第二条

社中身體ノ自由ヲ妨クル事

第三章

所有ヲ論ス

第一条

所有ノ權ノ本義及ヒ之ヲ得ルノ原由

第二条

所有ノ權ヲ犯ス事

第三条

償有形ノ物ニシテ授受永久ナルモノノ所

入有ノ定則即チ賣主買主ノ定則

第四条

一時ノ授受即チ借貸

附于他物所有物ノ借貸ノ執照ノ論

危険保管請合ノ論

第五条

無形ノ償ニテ貿易スル事

第四章

品性ヲ論ス

第五章

許判ヲ論ス

第六章

眞實ヲ論ス

第一條

第六確言

第二條

第五約束 契約

卷二

第七章

親ノ職務及シ其權ヲ論ス

第八章

子ノ職務及ヒ其權ヲ論ス

附子ノ職務ト權トノ存スル時間ヲ論ス

第九章

人民ノ職務ヲ論ス

第一條

政府ノ本義

第二條

政府ノ種類

第三條

合衆國ノ政府

仁惠ノ職務ヲ論ス

第一章

仁惠ヲ論ス

第二章

第一条

窮迫ノ人ニ對シテノ仁惠

附 教育ノ事

第二条

惡人ニ對シテノ仁惠

第二条

己ヲ害スル者ニ對シテノ仁惠

第三章

畜類ニ對シテノ職務ヲ論ス

修身論目錄終

己所欲施
之於人

修身論前編

阿部泰藏

譯

第一章

修身ノ定則修身ノ所作及ヒ志ヲ論ス

第一条

修身ノ定則

修身論ハ身ヲ脩ムル定則ノ學ナリ故ニ之ヲ學

ブニハ先ツ定則ノ字義ヲ知ラサルヘカラス例

セハ茲ニ二ツノ事アリ甲先ニスレハ乙必ス之

定則

一、次、ク、此、一、定、離、ル、ヘ、カ、ラ、サ、ル、關、係、ヲ、定、則、ト、名、
 ケ、或、ハ、之、ヲ、分、テ、其、先、ニ、起、ル、モ、ノ、ヲ、原、因、ト、云、ヒ、
 次、テ、起、ル、モ、ノ、ヲ、實、効、ト、云、フ、左、ニ、其、例、ヲ、掲、ク、
 水、ヲ、冷、マ、シ、テ、某、ノ、度、ニ、至、ラ、シ、ム、レ、ハ、水、必、ス、變、
 シ、テ、氷、ト、ナ、ル、故、ニ、化、學、者、水、ハ、某、ノ、度、ニ、シ、テ、氷、
 ト、ナ、ル、ヲ、定、則、ト、ス、又、水、ヲ、暖、メ、テ、某、ノ、度、ニ、至、ラ、
 シ、ム、レ、ハ、水、必、ス、變、シ、テ、蒸、氣、ト、ナ、ル、故、ニ、化、學、者、
 某、ノ、度、ニ、シ、テ、水、ノ、蒸、發、ス、ル、ヲ、定、則、ト、ス、是、則、チ、
 冷、ハ、水、ノ、凍、ル、原、因、ニ、シ、テ、熱、ハ、其、蒸、發、ス、ル、原、因、
 ナ、リ、ト、云、フ、也、

斯、ク、原、因、ト、實、効、ト、一、定、離、ル、ヘ、カ、ラ、サ、ル、ハ、之、ヲ、
 シ、テ、關、係、相、離、レ、サ、ラ、レ、ム、カ、ト、何、レ、ノ、時、ヲ、論、
 セ、ス、何、レ、ノ、地、ニ、於、テ、モ、此、力、ヲ、使、用、ス、ル、者、ト、無、
 キ、ヲ、得、ス、故、ニ、自、然、ノ、定、則、ヲ、ル、ハ、萬、物、ヲ、王、宰、
 ス、ル、天、ヲ、ル、ノ、證、ナ、リ、ト、云、フ、也、
 天、斯、ク、原、因、ト、實、効、ト、ヲ、シ、テ、一、定、離、レ、サ、ラ、レ、ム、
 シ、テ、人、ヲ、シ、テ、事、ヲ、行、フ、ニ、其、方、向、ヲ、知、ラ、シ、ム、レ、
 カ、為、メ、ナ、リ、故、ニ、水、ヲ、シ、テ、某、ノ、度、ノ、熱、ニ、於、テ、沸、
 騰、セ、シ、ム、ル、ハ、人、ヲ、シ、テ、水、ヲ、沸、騰、セ、シ、ム、レ、ト、欲、
 ス、ル、時、某、ノ、度、ノ、熱、ニ、至、ラ、シ、ム、ヘ、キ、ヲ、知、ラ、シ、
 二

メンカ為メナリ蓋シ天ハ定則ヲ變スルナキ
 モノナリ故ニ人何事ヲ為ストモ天ノ定メタル
 定則ニ従ハサレハ決シテ成功アルナリ
 身ヲ脩ムルトモ亦此ノ如ク人ハ自ラ其所行ハ
 是非ヲ知ルモノニシテ虚言、偷盜、殺害、殘忍等ヲ
 ナスハ其非ナルヲ覺エ眞實、正直、慈愛、親切、記恩
 ハ其是ナルヲ覺エ故ニ縱令少年ノ者ト雖深
 思ヲ待スレテ其所行ノ是非ニ因リ隨テ心ニ生
 スル所ノモノ亦異ナルヲ知ル即チ己ノ行非ナ
 ル時ハ悔悟ノ意ヲ生シテ自ラ其心ノ苦シキヲ

覺エ他人ノ之ヲ知ルヲ恐レテ其事ノ發露スル
 時ハ人ノ己ヲ賤シ惡ムヲ知ル之ニ反シ其行是
 ナル時ハ其心自ラ樂シキヲ覺エ漸愧後悔ノ念
 ナク人ハ皆己ヲ重シスハキコヲ知ル
 所作ノ是非ニ因リ心ニ苦樂ヲ覺ユルハ一定離
 レサルモノナリ故ニ之ヲ定則ト名ケ此關係ハ
 萬物ノ靈タル人ノ行ヒニノミ限リタルモノナリ
 因テ之ヲ脩身ノ定則ト云フ其於五徳ニ
 人其行ヒノ是非ニ因リ苦樂ヲ覺ユルハ決シテ變
 スヘカラサルモノナリ故ニ天ノ定メタル定則

ナルヲ疑ヒテ天ノ斯ク定則ヲ定メタル其趣旨
ハ普ク人ヲ教ヘ導クニ在リ蓋シ人其行正シキ
時ハ其心必ス樂シキヲ覺エ其行正シカラサル
時ハ其心必ス苦シキヲ覺ユ此ニ由テ考レハ天
ハ言ハサレヒ正ヲ愛シ不正ヲ憎ムト明カナリ
譬ハ人ヲ殺ス者盡ク死ヲ以テ罰セラルル也
ハ縱令文字ニ書スヲ之ヲ禁セサレヒ人ヲシテ
殺害ノ非ヲ知ラレムルニ至テハ少シモ異ナル
コナキカ如シ

第二条

何物ニテモ目的アリテ事ヲ為セハ之ヲ所作ト
名クテ之ヲ志トス
人畜共ニ目的アリテ事ヲ為スモノナリ蓋シ畜
類ハ互ニ相害シ或ハ人ヲ傷フモ亦傷害ヲ為ス
可キ目的ヨリ出ツ
然レヒ人ト畜類トハ其所作自カテ別アリ人ハ
其所作ハ是非ヲ知レヒ畜類ハ之ヲ知ル不能
ス故ニ畜類ノ所作ハ脩身ノ所作ニ非ラス脩身
ハ所作トハ唯是非ヲ區別スル人ノ所作ノミヲ

脩身論 前編卷一 四

云フ
 人ノ事ヲ為スニ或ハ偶然ニ出ツルモノアリ譬
 ハハ人ノ来ルヲ知ラスシテ球ヲ投ケ誤テ之ヲ
 傷ツクルカ如シ斯ル偶然ノ過ハ不安ノ心ヲ懷
 ケト雖取テ罪惡ヲ犯セント思フトナシ然レテ
 其志ヨリ出テ或ハ粗忽ニ由リ人ヲ傷害セシニ
 非者ザレバ本心ハ己ヲ責ムルトナシ然レテ
 又好意却テ人ノ害トナルコトアリ譬ハ病人ニ
 食物ヲ贈リ之カ為ノニ痛苦ヲ増スコトアルカ如
 シ病人ニ對シテハ自ラ不安ノ心ヲ生スレバ素
 キノドク

ト好意ヨリ出タルニ因リ本心ハ己ヲ責ムルコト
 ナレ是等ノ例ヲ以テ考フレハ所作ノ是非ハ其
 志ノ善惡ニ因ルモノナルコト推テ知ルヘシ
 志ノ惡シキニ數種アリ
 第一 人ニ害ヲ加ヘント欲スルハ惡シ譬ハ
 怒ニ乘ンテ人ヲ打ち或ハ人ヲ謗リテ其評判ヲ
 惡シクスルカ如キ是ナリ
 第二 人ノ不幸ヲ顧ミス己ヲ慰メント欲スル
 ハ惡シ譬ハ惡心アルニ非ラスシテ戲レニ人
 ヲ嘲笑スルヲ樂トスルカ如キ是ナリ豈人ノ樂

ヲ妨ケテ己ヲ慰ムルノ理アラシキヤ
 總テ天ノ定則ニ背キタル事ヲ為サント欲スル
 ハ皆惡シキ志ニレテ畢竟天ノ定則ノ大意ハ曰
 ク一心天ヲ愛セヨ曰ク己ノ欲スル所之ヲ人ニ
 施セ此ニ言ハ外ニ出テス
 第三 所作ノ是非ハ志ノ善惡ニ本ツクモノナ
 リ故ニ若シ惡事ヲ為サント欲スレハ縱令之ヲ
 為シ得スト雖モ其惡事タルヲ免レズ又善事ヲ
 為サント欲スレハ縱令之ヲ行フコト能ハサレモ
 天必ス之ヲ好ミス故曰天ヨリ之ヲ見レハ貧人

慈悲ノ念ハ富人ノ物ヲ施スト毫モ優劣無シ
 第四 善行ニハ善志ナカルヘカラス故ニ縱令
 善事ヲ行フモ善志ヨリ出タル非ラサレハ真
 ノ善事ト云フヘカラス譬ハ此ニ裁判人アリ
 テ人ノ為メ寛ヲ伸ハシ怨ヲ報スルカ如キハ
 善事ト云フモ天ヲ畏レズ亦人ヲ重シキ速ニ
 其身ノ煩勞ヲ免レンカヌモ裁判セザルモ
 善事ヲ行フタテモ非ラズ畢竟其志ハ己ノ煩勞
 ヲ免レンカヌメノ又子父母ノ命セシ事ヲ行
 フト雖モ心ニ之ヲ好マサルカ如キ縱令父母ノ

命ニ背カスト雖モ真ニ父母ヲ親愛シ好テ命ニ
 従フニ非ラス故ニ孝子ト云フヘカラス事ニ於
 テ志ハ大ニ平生ニ感覺ニ關係スルモノナリ然
 人ノ注意セサルカラス蓋シ常ニ猜忌報復毒
 惡ヲ感覺アル者其ノ所業亦猜忌報復毒ニ陷
 リ易ク斯ル感覺ハ人ヲ惡事ニ誘スモノナリ故
 ニ其感覺亦惡シキ者タラサルヲ得ス聖人曰ク
 諸惡皆其心ヨリ生スト蓋シ此謂ナリ又善人真
 第二章 修身論スルニ於テ其ノ善人ノ心ヲ
 養フ本心ヲ論スルニ於テ其ノ善人ノ心ヲ

第一条

修身ノ本心ノ解及ヒ其人ノ警戒スルノ方法
 何事ヲ為スニモ之ヲ為スニ具ナカルヘカ
 ス故ニ歩スルニ足ナカルヘカラス視ルニ目ナ
 カルヘカラス聴クニ耳ナカルヘカラス百
 事皆然リ
 無形ノ所作モ有形ノ所作無形有形ト見ルヘ
 ハ内キモト外物ト云フ即チ入ト異ナルトナシ故
 物ヲ考ヘ或ハ物ニ感スルニハ精神ナカルヘカ
 ラス事ヲ記憶スルニハ記憶ノ力ナカルヘカ
 ラ

本心

ス
 人ハ所作ノ是非ヲ區別スルノカアリテ己ノ所作ノ是非ニ因リ一種ノ感覺ヲ起スモノナリ此能カク本心ト名ク此ハ人ニノミ限リタルモノニシテ畜類ニ於テハ此能カアルコトナシ此是非ノ感覺ハ天ニ對シ或ハ人ニ係ハルノ差別ナク都テ人ノ所作ニ屬スルモノナリ論ヘハ茲ニ一童子アリ虚誕ヲ吐キ或ハ擔ヲナシ或ハ禮拜日ヲ犯ス時ハ人之ヲ聞見セサレモ自ラ其身ノ罪ヲ天ニ得タルヲ覺エ天罰ヲ蒙ルヘキコト

ヲ恐ル又物ヲ盜チ或ハ其伴ヲ騙シ或ハ之ヲ打チ或ハ之ヲ賤ミ辱カレムル時ハ亦自ラ人ヲ害セシ罪ヲ覺エ其面ヲ見ルコトヲ慙チ己ノ所作ノ罪ヲ得可キコトヲ知ル

附 人動物ヲ害スル時モ亦此感覺ヲ起スコトア之ニ由テ考フレハ本心ハ天ニ對シ人ニ係ハルノ差別ナク己ノ所作ノ是非トヲ區別スル能カニシテ他人ノ所作ニ於テモ亦其是非ヲ區別スルコト己ノ所作ト異ナルナシ故ニ本心ハ總テ

脩身ノ所作ノ是非ヲ區別スル能カニシテ又此
 本心ハ帝ニ其是非ヲ區別スルノミニ非ス事ハ
 是ナリト思フニ違ヘハ鼓舞シテ之ヲ行ハシメ
 其非ナリト思フニ違ヘハ制止シテ行ハシメス
 又事ノ是ナルヲ行ヘハ其心ノ樂シキヲ覺モ非
 ナルヲ行ヘハ其心ノ苦シキヲ覺ルカ如キ亦
 此能カニ因ル
 本心ノ人ヲ警戒スルヲ知ラシムヘキタメ所作
 ノ是非ニ付キ生スル所ノ感覺ヲ左ニ略説ス
 茲ニ不孝ノ子アリ父ニ對シテ怒ヲ發シ其打ツ

ヘキヤ將タ止ムヘキヤト考フルキハ父ハ己ヨ
 リ其力強ク之ヲ打ツハ懲治ニ逢フヲ思フノ
 念恐クハ先ツ生スヘシ故ニ其得失ノ償ハサル
 ヲ顧ミシテ父ヲ打ツハ愚ナリト思フノ念ヲ生シ
 敢テ為サ、ルニ至ルト雖モ若シ父病ニ罹リ子
 之ヲ打ツニ懲治スルヲ能ハサル時ハ憐愛ノ情
 頓ニ動キ其子熟考ヲ待タスシテ直ニ父ヲ打ツ
 ノ非ナルヲ覺ユルヲ父ノ己ヲ懲治スルト否ト
 ニ毫モ關係スルヲナシ又童子アリ他ノ童子ノ
 病ニ卧シタル其父ニ孝ヲ盡サス之ヲ打ツヲ見

ルキハ其所作ノ兇惡ナルヲ疾ミ懲治シテ可ナ
 リト謂フヘシ又子其父ヲ打タント欲シ却テ種
 錫ヲ受クルキハ人之ヲ憐ムト雖モ其傷ヲ受ク
 ルハ當然ノ理ナリト謂ハサル者チカルヘシ
 子父ヲ打ツノ非ナルヲ覺ユルキハ恰モ父ヲ打
 ツト勿レト告戒スル者アルカ如キヲ覺ユ其怒
 ヲ發スレキ心ニ兩端ヲ懷テ怒氣ハ之ニ其父ヲ
 打ツヲ勸メ本心ハ之ヲ制シテ恰モ父ヲ打ツヘ
 カラスト告ルカ如シ故ニ其怒ニ任スルト本心
 ニ從フトニ因テ善惡ノ別生ス又一童子玩具ヲ
 買ハシカ為メ錢ヲ乞ヒ玩具舗ニ行ク其途中貧
 婦ノ子ノ餓テ死ナントスルヲ見レハ其遊ヲ欲
 スルノ念ハ之ニ勸メテ玩具ヲ買ハシメトス
 本心ハ之ニ勸メテ餓子ヲ救ハシメトス此時
 私欲ノ情深キ童子ハ玩具ヲ愛スルノ念ヲ制止
 スルヲ能ハス其餓死ヲ顧ミサルニ至リ善良ナ
 ル童子ハ本心ノ勸メニ從ヒ私欲ヲ抑ヘテ錢ヲ
 與ヘ以テ其窮餓ヲ救フヘシ
 事ヲ行フテ後ニ心ニ生スル感覺ニ因リ本心ノ
 人ニ善ヲ勸ムルカ惡ヲ勸ムルカヲ知ルニ足ルヘ

買ハシカ為メ錢ヲ乞ヒ玩具舗ニ行ク其途中貧
 婦ノ子ノ餓テ死ナントスルヲ見レハ其遊ヲ欲
 スルノ念ハ之ニ勸メテ玩具ヲ買ハシメトス
 本心ハ之ニ勸メテ餓子ヲ救ハシメトス此時
 私欲ノ情深キ童子ハ玩具ヲ愛スルノ念ヲ制止
 スルヲ能ハス其餓死ヲ顧ミサルニ至リ善良ナ
 ル童子ハ本心ノ勸メニ從ヒ私欲ヲ抑ヘテ錢ヲ
 與ヘ以テ其窮餓ヲ救フヘシ
 事ヲ行フテ後ニ心ニ生スル感覺ニ因リ本心ノ
 人ニ善ヲ勸ムルカ惡ヲ勸ムルカヲ知ルニ足ルヘ

今上ニ記スル例ニ就キ之ヲ論スルニ童子若
シ錢ヲ與ヘ餓者ヲ救ヒレキハ其心樂シクシテ
自ラ其行ヲ善トシ又他人ノ之ヲ行フヲ見レハ
其人ヲ愛慕シテ其報ヲ得ルヲ願フハシ又若シ
其錢ヲ施セシ童子後ニ餓者ヲ救ヒシ地ヲ過キ
嘗テ施セシ額ヨリ二倍ノ錢ヲ得ルキハ人皆之
ヲ喜ヒ其報ヲ得タルハ當然ナリト謂フ可シ
之ニ反シ童子餓者ヲ顧憐セシ甚シキハ之ヲ罵
リ或ハ之ヲ打チ其地ヲ去リシ後ニ己ノ行ヲ回
想スルキハ慚愧憂悶シテ其心甚ク樂シマス自

ラ惡報ヲ承ク可キ懼心ヲ生シ他人ノ此事ヲ行
フヲ見レハ亦其反ヲ厭忌シテ相與ニ交ルヲ欲
セス其行ヲ所罰ヲ受ケテ可ナリト謂フ可シ
是惡ヲ行ヒシ人ハ危懼シテ其心安ンセス善ヲ
行ヒシ人ハ胆氣盛壯ニシテ畏憚スル所ナキ所
以ナリ夫惡ヲ行ヒシ人ハ己ノ罰セラルヘキヲ
知ル故ニ人皆己ヲ罰セシト知テ恐ル善ヲ行ヒ
人ハ己ノ賞セラレヘキヲ知ル故ニ何人ニ對ス
レトモ敢テ恐ル所ナシ其罪積ルハ
是惡事ノ發露シ易キ所以ニシテ惡事ヲ為シタ

人ハ畏懼慚愧ノ念其色ニ發シ其行ニ形ハレ
 テ之ヲ掩ハント欲スレハ愈其醜態ヲ現ハスニ
 至ル故ニ古書ニ曰ク惡人ハ自ヲ其手ニ捕ヘラ
 レ縦令ト協心戮力シテ之ヲ防カント欲スル氏
 終ニ其罰ヲ免カルヘシト云フ
 第二條 研キ或ハ之ヲ害フ事
 人ノ能力ハ或ハ之ヲ研ク下ヲ得或ハ之ヲ害フ
 下ヲ得ヘシ蓋シ同年ノ人ト雖モ强健人アリ
 軟弱人アリ或ハ腕力ノ強キ者アリ或ハ脚力

健ナル者アリテ内部ノ能力モ亦然リ強記ノ
 人アリ健忘ノ人アリ文ヲ作ルニ速ナル者アリ
 遅キ者アリ其他勝テ數フヘカラス
 大抵最モ強キ能力ハ最モ多ク用フルモノナリ
 茲ニ二人アリ甲ハ乙ヨリモ力勝レリ因テ之ヲ
 推問スレハ果シテ甲ハ乙ヨリモ力ヲ勞フル
 多キ者ナリ故ニ平生腕ヲ用フルヲ職業トスル
 者ハ其腕必ス強ク多ク歩行スル者ハ其脚必ス
 健ナリ又常ニ記憶ノ力ヲ用フル者ハ強記トナ
 リ稀ニ之ヲ用フル者ハ健忘トナル故ニ總テ人

ノ能力ハ之ヲ用フレハ常ニ強ク用ヒザレハ常ニ弱キヲ通常トス
 人ノ本心モ亦此規則ノ如ク
 所作ノ是非ヲ決セシカ為本心ヲ用フルト數
 ナレハ是非ヲ區別スルト増容易ナルヲ得可レ
 故ニ常ニ何事ヲ為スモ此事ハ是カ因ヤ非ナ
 リヤト自問ニ問ヒ然ル後ニ之ヲ行ヘハ己ハ
 職務ヲ過ツト幾ト稀ナリ成人小兒ノ別ナク皆
 然ラザルハ無シ
 德行ニ注意シテ有徳ノ人物ヲ思念スレハ其本

心是非ヲ區別スルノ力ヲ強クス之ヲ行フト數
 ナレハ是非ヲ知テ之ヲ避クルト愈易シ本心ヲ研
 キ徳ヲ修メント欲スル時聖人ノ成徳ヲ思念ス
 ヘキハ蓋シ是カ為メナリ故ニ少年輩ハ常ニ古
 ノサニユトルニシテ近代ノワシント
 シ及ヒ其他先賢ノ人ト為リテ思念スヘシ若シ
 之ニ反スレハ其是非ヲ區別スルノ力ヲ弱クス
 ル辨ヲ待タス
 人己ノ所作ノ是非トテ省察スルニ怠リ是ヲ
 行ヒ非ヲ行フ敢テ其心ニ留メサル時ハ每事是

非ヲ決スルノ難キニ至ルヘシ故ニ父母小兒ニ
 其所作ヲ省ミテ是非ヲ決スヘキヲ教フルキハ
 之ヲ教ヘサル小兒ニ比スルニ其事ヲ為スノ際
 能ク是非ヲ辨スヘシ是世人ノ普ク知ル所ナリ
 又惡事ヲ見聞レ或ハ常ニ惡念ヲ懷ク時ハ是非
 ヲ決スルノ力ヲ弱クス蓋シ童子他人ノ擔ヲ為
 スヲ始メテ聞クキハ其非ナルヲ覺ユレ凡之ト
 親シク交ハルキハ其擔ヲ為スヲ見レ凡掛念セ
 不久シカラスレテ自ラ擔ヲ為スニ至ルヘシ虚
 誕殘酷惡口及ヒ其他ノ諸惡皆然リ故ニ人ハ友

ヲ擇ミ謹テ惡人ト交ルヘカラス
 前条ニ云ヘル如ク本心ノ人ニ是ヲ為スヲ勸ム
 ル、恰モ詞ヲ以テ命令ヲナスカ如ク此命令ハ
 之ヲ用フルト用ヒサルトニ因リ強弱ノ別ヲ生
 スルモノナリ故ニ常ニ小心翼々トシテ本心ノ
 命令ニ従ハント欲スル人ハ惡念ノ之ヲ誘惑ス
 ル力弱ク常ニ正直ナルヲ務メ又戲ト雖モ人ヲ
 騙ストナカラント欲スル人ハ其心不正ヲ防ク
 一強シ然ルニ時々虚言ヲ吐キ或ハ人ヲ騙ス者
 ハ虚誕不正ヲ防ク人心次第ニ減シ其偷兒虚言

者ニ陷ラサル者ハ之ヲ僥倖ト謂フヘシ
 右ノ規則ハ互ニ相關係スルモノニシテ己ノ所
 作ノ是非ヲ省察スル數ナレハ是ヲ為サント欲
 スルハ心愈強ク是ヲ為サント欲スルハ心強ク
 是ハ是非ヲ區別スルト愈易シ故ニ此ノ論ニ
 本心ハ苦樂ノ源ナルト前条ニ於テ既ニ之ヲ詳
 論ス然ルニ此苦樂ハ人ノ本心ヲ用フル多少ニ
 由リ又強弱ノ差アリ故ニ此ノ論ニ命命命
 人善事ヲ行フト數ナレハ善ヲ行フヲ樂ハ人念
 愈深シ故ニ仁者ハ其心常ニ樂キヲ覺エ稀ニ善

事ヲ行フ者ハ之ヲ樂ムノ念少ナリ故ニ善ヲ為
 セ凡其心幾シト樂ヲ知ラズ然ルニ真ノ仁人ハ
 善ヲ行フテ人ヲ樂マシム亦以テ恒ニ己ノ樂ト
 ナス蓋シ善事ヲ行フテ樂ヲ得ル時ハ其為スヘ
 キ善事極テ多クシテ貧富少長ノ別テク隨意ニ
 善事ヲ為シテ其樂ヲ得可キ世界ニ天人ヲ任シテ莫大
 ノ恩ト思フ可シ故ニ此ノ論ニ命命命
 之ニ反シ數本心ニ背ケハ非ヲ為セ凡其苦ヲ覺
 エルト次第ニ少ナリ故ニ童子始メテ虚言ヲ吐
 キ或ハ惡言ヲ出ス時ハ其非ヲ覺エテ心甚ク樂

シカラサレハ其習慣トナルニ至テハ少シモ其
苦ヲ覺ユルヲナク甚クシキハ人ニ對シテ之ヲ
誇ルニ至ル偷盜及ヒ他ノ諸惡皆然リ其苦
此ノ如キハ惡人其苦ヲ覺ユルヲ少クシテ惡
事ヲ為スヲ得故ニ天ハ惡人ヲ利スルニ似タリ
ト雖モ深ク之ヲ考メハ全ク之ニ反セリ其故
ハ人若シ非ヲ為スヲ畏レテ之ヲ為セズ本心其
苦ヲ覺ユル故ニ非ヲ為スヲ稀ニシテ且之ヲ秘
スト雖モ若シ本心其苦ヲ覺ユサルニ至ルハ
大膽ニシテ顧忌スル所ナク公然其非ヲ行フニ

因リ忽チ相當ノ罰ヲ受ク可シ故ニ人人非ヲ行
フキ本心ヲシテ之ヲ制止セシムルハ是天ノ惠
ニシテ若シ本心ノ之ヲ制止セサルニ至リ其罰
ニ逢フハ是天ノ怒甚クシク其自滅ニ任ス
ルノ證據ナリ然レズ非ヲ行フヲ制止スル本
心ノ鈍キハ又只一時ニ過キスレテ永ク回復セ
サルヲナシ故ニ其病ニ卧レ或ハ死ニ臨ミシキ
ハ數本心ノ發露スルヲアテテ且其本心ノ力ハ
現世ヨリ未來ニ於テハ更ニ強大ニシテ生前惡
事ヲ行ハハ永ク苦惱ノ源トナルヘシ

上ノ論ニ由リ之ヲ推セハ左ニ記スル事件ノ瞭然タルヲ知ルヘシ
 且其本心ハ
 第一 人は行フノ數ナレハ之ヲ行フノ愈易クシテ其樂愈大ナリ誘惑ヲ拒ムノ數ナレハ何等ノ誘惑アリト雖モ之ヲ拒ムノ愈易シ故ニ人ノ徳ニ進ムヤ其一步毎ニ更ニ徳ニ進ムノ預備ヲナシ次第ニ相積ムノ後ハ確乎動カスヘカラスル人物トナルヘシ
 第二 之ニ反シテ非ヲ行フニ數ナレハ誘惑ヲ拒ムノ愈難ク罪ニ陷ル愈易クシテ本心ノ制止

スル所ニ背クト雖モ之ヲ悔ムノ念愈少ナシ故ニ罪ニ陷イル深ケルハ徳ニ復スル愈難ウシテ回復ノ望次第ニ絶スルニ至ル
 此ニ由テ人ハ常ニ誘惑ヲ拒ミ斷然其是ヲ行フノ大事タルヲ知ルナレ又惡事ノ習慣トナリシ片ハ果然トシテ直ニ之ヲ改メ須臾モ猶豫スヘカラス若シ之ヲ違ウスル片ハ之ヲ改ムル愈難クシテ之ニ克ツノ力愈減スルニ至ルハ人ニ對スルノ罪猶此ノ如シ況ニヤ天ニ對スルノ罪ニ於テヲヤ

左ノ註解ハ「レビニル、ミセラニ」ト云ヘル書
 中ニ記シタルモノニシテ能ク此条ノ義ヲ明カ
 ニス故ニ今茲ニ附録ス
 警鐘ノ話
 一女子アリ早起セシト欲スル所眠覺メ難
 キヲ患ヒ警鐘ヲ買ヘリ此警鐘云ヘレハ何
 時ニテモ隨意ニ大ナル響ヲ發スヘク造リシ
 モノナリ
 此女ハ其警鐘ヲ床頭ニ置キ期ニ届リテ其響
 ノ聲ヲ驚カサレ聲ニ應レテ早起シ終日

其心快ク此ノ如キ者數周日警鐘モ亦其職ヲ
 入怠シテ其聲鏘然タリシカ後女子早起ニ倦
 入警鐘ヲ為メニ驚回セラルレ氏唯之ヲ顧ルノ
 ミニシテ再ヒ眠ニ就キ數日ノ後ハ警鐘ノ聲
 復々其眠ヲ覺スヲナシ其故ハ其響回スルニ
 背クテ習慣トナリテ警鐘ハ故ノ如ク響ケル
 復々之ヲ聞クヲナキニ因レリ是ニ於テ其女
 子ハ警鐘ヲ有レテ無キカ如キヲ省ミ斷然意
 ヲ決シテ再ヒ其響ヲ聞ク所ハ直ニ起キテ其
 警戒ニ背カサラント期レタリ能ク過ヲ改ル

者ト謂フヘシ
 本心亦此ノ如ク小事ト雖凡人能ク其命令ニ
 従フキハ其聲ヲ聞クト常ニ鏘然ナレ氏或ハ
 其非ナレモ思フテ之ヲナセバ次第ニ感覺ス
 鈍クナレ終ニハ本心ノ聲己ヲ驚回スルナリ
 キニ至ルヘシ
 第三條
 警發修身ノ規則
 人ハ何事ニ於テモ之ヲ為サレト決セサル前
 先
 ヲ左ノ規則ニ注意スヘシ

第一 事ヲ為スニ先ク此事ハ是ナリト自ラ
 之ヲ心ニ問フヘシ此問ニ答ヘシムヘキ為メ天
 人ニ本心ヲ賦與セリ故ニ若レ己ノ行フヘキ職
 務ヲ知ルヘキ為メ其本心ヲ用セサルハ是太
 惡ニシテ天必ス之ヲ罪ス且之ヲ其本心ニ問ス
 ハ必ス事ヲ為レ始メサル前ニ於テスヘシ若シ
 既ニ之ヲ為レ始メ或ハ之ヲ為サレト決シタル
 後ハ恐ラクハ遅クシテ及ハサルヘシ
 第二 上ニ記シタル如ク人ハ本心ノ命令ニ従
 ハスニテ之ヲ害スニ至ル事ヲ毎ニ想起スヘシ

人ハ數其本心ニ背キテ本心十分ニ正シキヲ得
 ス因テ其事ニ當ルノトキ數是非ノ決ニ難キト
 アリ故ニ若シ是非ノ分明ナラサルモ之ヲ行ハ
 スレテ妨ケナキニ於テハ決シテ之ヲ行フ入カ
 ラス
 第三ニ常ニ本心ノ命スル事ヲ行ヒ本心ノ禁ス
 ル事ヲ為ササルヲ規則トス人故ニ言行思念
 ノ別ナク或ハ公ニ之ヲ行ヒ或ハ私ニ之ヲ行ヒ
 又ハ己ノ大害ヲナス尺毫モ之ニ關係セズ只己
 ノ是ナリト思フ事ヲ為ス蓋シ害ノ最モ大

ナルハ常ニ非ヲ為スヨリ起リ益ノ最モ大ナル
 ハ常ニ是ヲ為スヨリ生ス故ニ人ハ世ノ譏譽ヲ
 顧ミス常ニ天ニ従フヘシハ
 事ヲ行フテ後ノ規則共ニ天ノ定限スル決實ハ
 第一ニ常ニ己ノ行ヲ省ミ其是非ヲ決スヘシ是
 ヲ省身ト云フ
 第二ニ省身ハ小心ヲ主トス故ニ獨リ閑室ニ坐
 シテ静カク之ヲ行フヘシ且ツ之ヲ行フハ別ニ
 時間ヲ用フルニ非サレハ決シテ為スル能ハサ
 ルヘシ

省身ハ須ラク公平ニスヘシ故ニ己ノ是非ヲ決
 スルハ必ス其正シキニ出ルヲ務メ假リニ他人
 ノ己ノ地位ニ置キ己ノ行ヲタルトテ他人ノ行
 フタルトテ看做シテ以テ其是非如何ト省ミル
 ハ又天ノ定則ト先賢ノ模範トテ鑒ミテ己ノ
 行事ノ之ト合スルヤ將ク齟齬スルヤ考フヘ
 シ故ニ其父母長者ト共ニ天ノ定則及ヒ先賢ノ
 模範等ヲ談論シ自ラ是非ノ決シ難キ事アラハ
 其教諭ヲ請フヘシ少年ノ為メニ甚タ有益ノ事
 ナリ

己ノ行ヲ省ミ其是非ヲ決セシ後ハ左ノ規則ヲ
 守ルベシ
 第一 行ニ是ナリシハ天ノ己ヲシテ是ヲ行フ
 ヲ得セシメタルヲ謝シ更ニ徳ニ進ムヲ務ムハ
 第二 是非相混シタルハ審ニ其混レタル原
 因ヲ察シ再ヒ過ニ陷イルヲ避クヘシ
 第三 行ニ非ナリシハ左ノ規則ニ従フヘシ
 其一 其行ヲ省ミ自ラ其罪ヲ知ルニ至ラサレ
 ハ止ムト勿レ

其二 甘シテ本心ノ苦ヲ受ケ他事ヲ為シテ
 其苦ヲ忘レント欲スル一勿レ本心苦ヲ受タレ
 ハ後ニ非ヲ為スヲ避ル一易シ
 其三 自ラ過ラ悔イ再ヒ其行ヲ可カラサルヲ
 決意スルニ至ル迄ハ之ヲ忘ル一勿レ
 其四 己ノ為シタル害ヲ償フヲ得ハ直ニ之ヲ
 償フヘシ若シ人ニ對シ虚誕ヲ吐キタルハ直
 ニ行テ之ヲ白狀スヘシ又己ノ所有ニ非ラサル
 物ヲ取リタルハ行テ之ヲ返スヘシ若シ人ニ
 害ヲ行フテ之ヲ償フト能ハサルハ其償ニ代

フルノ方至少ト雖行テ其過ヲ謝セサルヘカ
 ラス
 其五 何事ニ於テモ惡ハ總テ天ニ對シテノ罪
 ナリ故ニ至誠ヲ盡シ悔悟シテ天ノ赦免ヲ請フ
 へシ
 其六 思念及ヒ所行ノ別ナク其罪惡ノ原因ヲ
 察シ後來慎テ之ヲ避クヘシ
 其七 上ノ諸件ヲ行フニハ皆至誠ヲ盡シ天ニ
 倚賴シテ之ヲ為スヘシ天ハ慈悲ノ心深ク各處
 在ラサル所ナク常ニ人ヲ扶助シテ其誠ヲ守ラ

シメント欲ス故ニ人之ニ依頼スルキハ天ハ決
 シテ之ヲ棄ルナシ
 上ニ記スル所ノ説ヲ見レハ人ハ少長ノ別ナク
 皆重責ヲ負戴スルヲ覺ラサルヘカラス其故ハ
 人之皆天ニ對シ人ニ對シテ其職務ヲ警戒スル
 ノ能力ヲ有ス此能力ハ各處在ラサル所ナシ人
 若シ其警戒ヲ聽カント願フキハ何レノ時ト雖
 平常ニ之ヲ聽クヲ得ヘシ又此能力ハ其黙スル
 ヲ願ヘ凡屢人ヲ警戒シテ其是ヲ行フヲ勸ム故
 ニ人若シ非ヲ為ス片ハ天ニ對シテ辨解ノ辞ナ

殊ニ此本心ハ永ク人ト相離レス萬世苦樂ノ
 源ヲ為セバ此論ノ確然トシテ愈變易スヘカラ
 サルヲ知ルニ足ルヘシ又少年ト雖モ其本心ヲ
 有スルトハ成人ト相異ナルヲナシ故ニ亦此規
 則ニ從ハサルヘカラス若シ之ニ背クキハ天ノ
 罰ヲ與フル必ス成人ト異ナルヲナシ
 第三章
 本心己ヲ責メサル片ハ其行必ラス是ナリ
 ヤ否ヤヲ論ス
 人アリ他人ハ惡事ト思フ所行ヲ為セバ己ノ本

心ハ己ヲ責メサルコトアリ故ニ他人ハ捨ヲ為ス
 フ罪ナリト思ハズ其人ニ在テハ捨ヲ為シテ毫
 モ妨ナシト謂フ者アリ是レ何ノ故ヤ且天ヨリ
 之ヲ見レハ此ノ如キ者ハ眞實ノ罪ニ非ラサル
 ヤ
 答フ前ニ云ヘル如ク人若シ其本心ノ命令ニ從
 ハサレハ終ニ之ヲ損フモノナリ故ニ今童子ニ
 フ為シテ本心己ヲ責ムレバ敢テ其命ニ從ハサ
 レハ更テ捨ヲ為スノ片本心ノ己ヲ責ムルコト較
 少ナリ推テ數次ニ至ル片ハ愈少ナクシテ終ニ

ハ其本心全ク己ヲ責サルニ至ル可シ然レバ其
 事ヲ非ナルニ於テハ敢テ初ニ異ナルコトナシ譬
 ハ今日輪ヲ仰キ看ル者初メ凝視スル片ハ較
 其目ヲ損ヒ再ヒ凝視スル片ハ愈其目ヲ損フテ
 相繼テ已マサレハ終ニ全ク盲者トナレトモ日
 輪ノ光輝ハ毫モ減少セサルカ如シ
 人ハ總テ天ノ罪人ナリ故ニ天ヨリ見ル片ハ實
 ニ大惡ノ事ト雖凡人ト自ラ知ラスレテ之ヲ行
 フコト無キニ非ラス蓋シ不孝ノ子ハ其父母ニ後
 ハサルヲ自ラ非ナリト思ハサルコトアリ然レバ

思ハサルニ因リ其惡ヲ減スルヲナレ又人ハ大
 抵天ニ背キ其仁惠ヲ遺忘シテ罪ト思ハサルコ
 トリ然レ亦之ニ因リ其罪ヲ輕クスルヲナレ
 斯ク本心ノ鈍キハ人ノ過ヨリ生スルモノナレ
 ハ之カ為メ其咎ヲ輕クスルノ理ナシ故ニ罪ヲ
 犯シテ本心已ヲ責メサレ凡初メ本心ノ已ヲ責
 メシ時ノ如ク其罰ヲ受テ可ナリ其罪ヲ減ス
 左ニ習慣ノ事ヲ略論スヘレ
 人事ヲ行フコト數ナル所ハ之ヲ行フ甚ク容易ニ
 シテ幾シト思慮ヲ用フルコトナク終ニハ自ラ之

ヲ行フヲ禁止スルコト能ハサル無至ル可シ琴瑟
 ヲ彈シ又ハ或ル言語ヲ用フルカ如キ其習慣ヲ
 得ルノ甚ク速カナル人ノ能ク知ル所ナリ
 脩身ノ所作モ亦同シク人常ニ善事ヲ為セハ其
 善習慣トナリテ知ラス識ラス善事ヲ行フ數惡
 事ヲ為セハ亦其習慣トナリテ終ニハ之ヲ行ハ
 凡毫モ省察スルコトナキニ至ル
 問フ惡事ト雖凡習慣トナリタル所ハ其惡輕キ
 否天ノ一タヒ禁セシ事ハ天ノ之ヲ行フテ其習

慣トナレルノ故ヲ以テ之ヲ許ルストナシ天人
 命ニ命シテ曰ク汝偷盜スルト勿レト而メ天ハ其
 命令ヲ變スルコトナシ故ニ人若シ偷盜ヲ為シテ
 天ノ意ニ忤フキハ其偷盜ノ習慣トナレルハ天
 ノ怒ニ觸ルルコト更ニ甚タシカラサルヲ得ヌ又
 甲者アリ乙者ヲ打テ甲者ノ本心猶己ヲ責ムル
 キ乙者必ス謂フ可シ甲者自ラ其過ヲ悔イ再々
 之ヲ行フ可カラスト然ルニ甲者乙者ヲ見ル毎
 ニ必ス之ヲ打テ終ニ甲者ノ本心毫モ己ヲ責メ
 サルニ至レバ乙者敢テ之ヲ罪無シトセス必ラ

ス謂ハン汝一タヒ我ヲ打ツ猶非ナリ況ンヤ其
 相逢ノ毎ニ我ヲ打ツノ習慣ヲ為スヲヤ
 此説ノ如キ片ハ惡習ニ陷イリ思慮ヲ用ヒス
 テ惡事ヲ行フハ惡事ノ大ナルモノヲサルヲ
 得ス

新第第四章

樂ヲ論ス

造物者ノ人ヲ造ルヤ其周邊ニ生存スル百物ヲ
 欲スルノ念ヲ賦與シテ人ノ此欲ヲ遂クルヲ樂
 ト名ツク蓋シ人ハ飲食音樂風景等各其好ム所

アリ之ヲ口腹耳目ノ樂ト名ツク又書ヲ讀ミ知
 識ヲ博メ詩章ヲ愛シ辨論ヲ好ム之ヲ精神ノ樂
 ト名ツク又朋友親戚ト交リ相與ニ其歡ヲ盡ク
 ス之ヲ交際ノ樂ト名ツク又惡ヲ去テ善ニ就キ
 徳ヲ脩メテ以テ樂ヲ得之ヲ脩身ノ樂ト名ツク
 造物者ノ入ヲ造ルヤ是等ノ源ヨリシテ其樂ヲ
 取ルコトヲ得セシム且人ノ周邊ニ是等ノ物ヲ供
 備スル時ハ想フニ造物者ノ入ヲシテ是等ノ樂
 ヲ享ケシメント欲スルコト明ナリ故ニ造物者ノ
 意ハ常ニ入ヲシテ視聽飲食ヨリ一ノ樂ヲ享ケ

シメ讀書思念ヨリ一ノ樂ヲ享ケシメ朋友親戚
 ヨリ一ノ樂ヲ享ケシメ善ヲ行ヒ是ヲ為シテ百
 事天ニ從フヨリ一ノ樂ヲ享ケシメト欲スル
 ニ在リ
 是等ノ事物ハ皆樂ノ源ニシテ造物者ノ意モ亦
 此等ノ事物ヲ以テ人ノ樂ニ供セシト欲スルニ
 在リ然レ之ヲ用フル自ラ一定ノ度アリテ若シ
 其度ニ過ルルハ其樂ヲ樂ムコト能ハサルニ至ラ
 シム故ニ食物ノ愛ハ樂ノ為メナレバ放食シテ
 其量ニ過ルルハ嘔心ヲ發シ或ハ病ノ因ヲナシ

或ハ終ニ死ヲ致シ或ハ又之カ為メ其精神及ヒ
 脩身ノ樂ヲ害フニ至ル可シ精神ノ樂モ亦同シ
 カ若シ之ヲ求ムルハ其度ニ過ル片ハ却テ其樂
 ヲ得ルノカヲ害ヒ度ニ過ルト最モ甚タシキ片
 ハ終ニ精神錯亂ノ患ヲ生スルニ至ル故ニ脩身
 ノ樂ト雖モ神ニ事ルカ如キハ人間今日ノ狀態
 ニ於テハ之カ為メ健康ヲ害シ快活有益ノ信心
 ヲ生セス却テ失望疑惑ヲ起ストナキニ非ス
 故ニ其欲ヲ遂クルハ人ノ樂ニシテ造物者ノ意
 ナリト雖モ常ニ造物者ノ定メタル度内ニ於テ

ノ其樂ヲ得ヘク若シ其度ヲ踰ユル片ハ樂ヲ
 得スシテ却テ不幸ヲ生ス故ニ最大ノ樂ヲ得ル
 ハ己ノ欲ヲ恣ニシテ造物者ノ設ケタル定
 則ヲ守ルニ在テ若シ造物者ノ定則ニ齟齬シタ
 ル方法ヲ用ヒ或ハ其度ニ過キテ欲ヲ遂クル片
 ハ忽チ其身ヲ不幸ニ陥ラシムルニ至ル試ニ
 看ヨ世間最モ樂ナキ人ハ只歡樂ヲ求メ取テ造
 物者ノ定則ヲ顧ミサル者ナリ故ニ人若シ其樂
 ヲ欲セハ左ノ規則ヲ守ルヘシ
 第一 飲食ヲ節スヘシ即チ無益ノ物ヲ飲食ス

ハカラス暴飲放食スヘカラス人若シ物ヲ食ヒ
之カ為メニ苦痛ヲ起シ或ハ睡眠ヲ催スルハ自
ラ其飲食ヲ節ヲ失ヒシヲ知ルルモ
第二、事為メニ勉強スル人若シ労働セザ
ルハ忽チ虚弱多病ナリテ讀書聞見ホ子アリヲ樂モ
之ヲ享ルル亦少ナキ蓋シ怠惰ハ其身體ヲ害フ
如ク亦精神ヲ害フモノナリ
第三、學業ヲ勤ムヘシ然レモ只人々ヲシテ學
業ニノミ光陰ヲ用ヒシムルキ身謂ニテラス此
ノ如キ豈人ノ行キ得ルキ所ナラヤ故ニ其

學業ヲ勤ムルハ人々其職業ノ餘暇アヤク多少
ノ時ヲ用ヒ常ニ書ヲ讀ミ精神ヲ研クニ在テ斯
人如ク為スルハ即チ樂ノ源ニシテ有益ノ具ナ
ナルヘシフランクリ合衆國ノ大學者幼年ノ
カ初メ印書家ノ小奴ヨリ終ニ理科政科ノ大先
生トナリ大家ノ基ヲ立テシモ亦其餘暇ノ時ヲ
用ヒタルニ因レリ
第四、善良ナルヘシ即チ每事天ニ事ヘ天ニ役
ハント務ムルヲ言フ蓋シ誠意ヲ以テ天ヲ敬ス
ル人民ハ少長ノ別ナク他ノ人民ヨリ其樂ヲ得

修身論 前編卷二 三九

ル甚ク多キヲ人皆之ヲ聽サハルヲ得ス
 第五 仁惠ヲ務ムヘシ即チ人ヲシテ樂ヲ得セ
 シノント欲スルノ謂ニシテ天ニ事アルノ一端
 ナリ蓋シ己ノ樂ヲ求ムルヨリハ人ノ樂シムヲ
 見テ自ラ之ヲ樂ムヲ其樂更ニ深クシテ人ノ知
 識ヲ博シムルモ其趣皆亦世人ニ益アルヲ欲スル
 ニ在ルハ徒ニ己ノ樂ニ供セント欲スルヨリ
 其樂特ニ多ク又少年長者ノ別ナク無用ノ衣食
 ニ支消スル其費半ヲ以テ人ニ樂ヲ得セシム
 ル費用ニ供スルハ真人ノ樂ヲ得ルヲ實ニ幾多

ナルヲ知ラス

市川清流 校

修身論前編卷一終

東京芝大神宮前

和泉屋市兵衛

